

## 市民革命

### 市民革命の構造



独占解消・私有財産・出版・言論の自由

資本主義体制の確立

フランス型：下から

ドイツ型：上から

## フランス革命

### 旧体制（アンシャンレジーム）：革命前の社会

身分的不平等

第1身分：12万人、国土の12%所有	}	52万人
第2身分：40万人、国土の40%		免税特権
第3身分：人口の98%、2300～2500万人		

各身分の階層分化

聖職者の階層格差

貴族の階層格差

上層市民：特権的支配層に癒着

中産市民層：不満・啓蒙思想の浸透

下層市民層：反資本主義的動向

農民層分解：大借地農・自営農・折半小作人

啓蒙思想の普及

ヴォルテール：宗教と絶対主義を野蛮のきわみと批判。

ルソー：『エミール』

『人間不平等起源論』

重農主義：農業における自由放任政策

テュルゴー

ボーマルシェ：『フィガロの結婚』

## 革命の勃発

財政危機：テュルゴー、キャロンヌ、ネッケル  
免税特権の廃止を提案

名士会（1787）：キャロンヌ召集  
法服貴族の反抗、三部会を要求

経済情勢の悪化（1788）  
凶作・食糧危機・一揆・失業・暴動  
アーサー・ヤングの観察

三部会（1789）：ネッケル召集  
投票方式をめぐる対立

国民議会の結成（6.17）

テニスコートの誓い（6.20）  
ミラボー・アベ＝シェイエス

## 立憲議会（1789-1791.9）

バスティーユ事件（1789.7.14）

大恐怖

封建的諸特権の廃止（1789.8.4）：  
人格的隷属に関わる特権の即時無償廃止  
経済的隷属に関わる特権の有償廃止

人権宣言（1789.8.26）：市民社会の原理確立  
国民主権・抵抗権・財産権

ヴェルサイユ行進（1789.10）：国王一家パリに戻る

ヴァレンヌ事件（1791.6）

91年憲法制定：立憲君主制

## 立法議会（1791.10-1792.9）

フィアン派：264名・中央派：345名・ジロンド派：136名  
ジロンド派内閣（コンドルセ・ブリソ）

革命戦争勃発 (1792.4.20)

8月10日の革命：国王一家の幽閉・王権の停止

ヴァルミーの戦い (1792.9)

国民公会 (1792.9-1795)

ジロンド派・平原派・モンタニユール派

ルイ16世の処刑 (1793.1.21)

革命の危機：第1回対仏同盟結成とヴァンデ県の反乱

恐怖政治 (1793.6-1794.7)

ジャコバン独裁 (ロベスピエール・サン=ジユスト・マラー)

公安委員会中心

93年憲法制定

封建制完全廃止・価格統制・国民徴兵令・革命暦・メートル法・  
理性の崇拝

ジャコバン派の弱体化

エベール派 (左)・ダントン派 (右) への弾圧

保安委員会との対立

テルミドールの反動 (1794.7.27)

ロベスピエール処刑

総裁政府 (1795-99)

テルミドール派

バブーフの陰謀 (1796)

ナポレオンの台頭

コルシカ出身、ジャコバン支持

イタリア方面軍司令官 (1796)

カンポ=フォルミオ和約→対仏同盟の崩壊 (1797)

エジプト遠征 (1798)

第2回対仏同盟

ネルソンのイギリス艦隊→アブキール湾の海戦

ブリュメール18日のクーデタ (1799)

統領政府 (1799-1804)：革命の終焉